資料３

１　上川中部医療圏の今後の医療需要【外部環境要因】

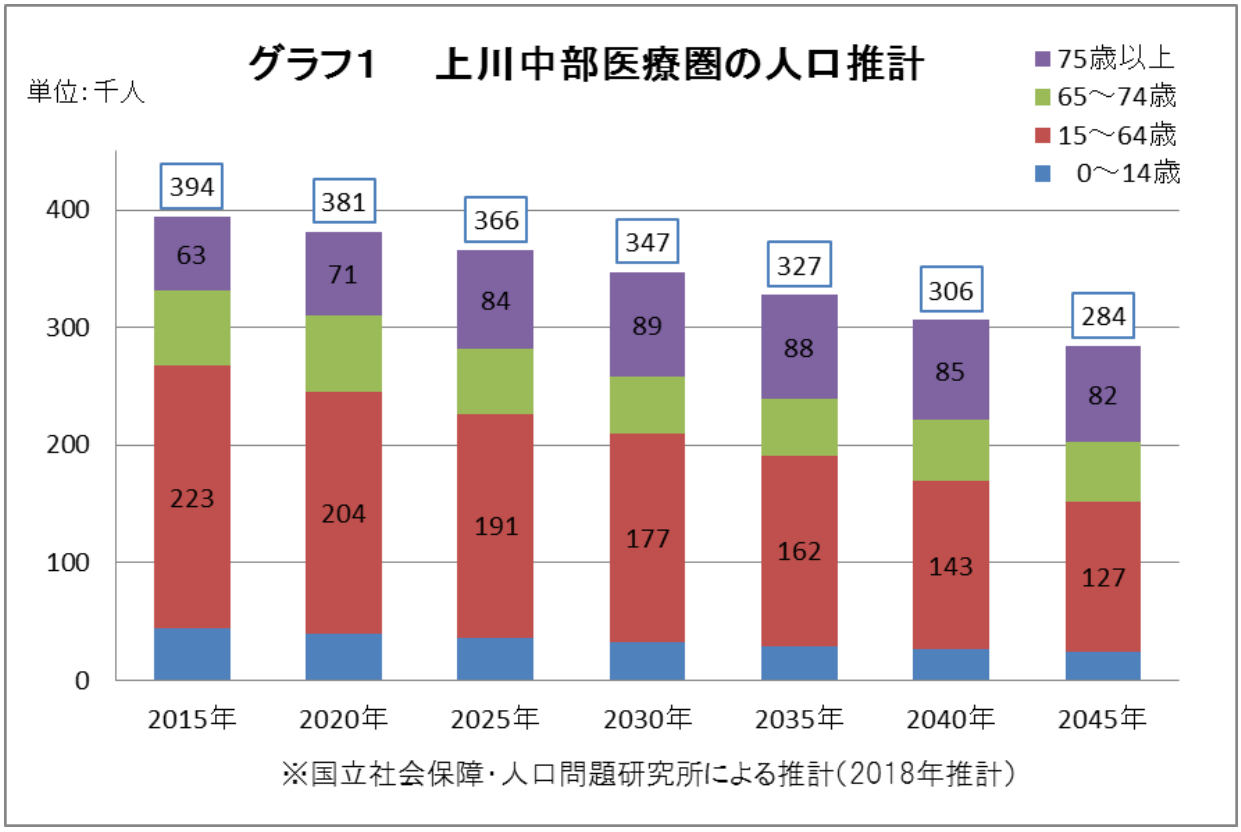
（１）上川中部医療圏の人口推計

①　グラフ１は上川中部医療圏の年齢区分別人口推計（国立社会保障・人口問題研究所による推計）。

②　１５～６４歳の生産年齢人口の減少が著しい。

③　７５歳以上の高齢者は２０３０年まで増加し，その後緩やかに減少していく。

④　結果として総人口は減少していくが，７５歳以上の割合である高齢化率は上昇していく。



（２）上川中部圏域の入院患者数推計

① 表１は，２０１８年度ＤＰＣ公開データのうち，上川中部医療圏内のＤＰＣデータ提出病院の状況から算出した，人口１０万人当たりの年齢別入院受療率である。

② ＤＰＣデータは，ＤＰＣ病院のほか，２００床以上の急性期一般入院料を算定する出来高病院にも提出が義務づけられており，急性期医療の状況を表しているデータと言える。

③ 表２は，周辺医療圏からの患者流入率を表している。上川中部医療圏は完結率が約９８％と高いほか，隣接する他の医療圏からの患者も多く流入している。

④ グラフ２は，前述の人口推計，入院受療率，患者流入率から算出した，１日入院患者数の推計である。

⑤ この医療圏の入院患者数は２０２５年頃にピークを迎え，２０３０年頃までは横這いから微減となり，２０３５年以降は明確に減少していく。

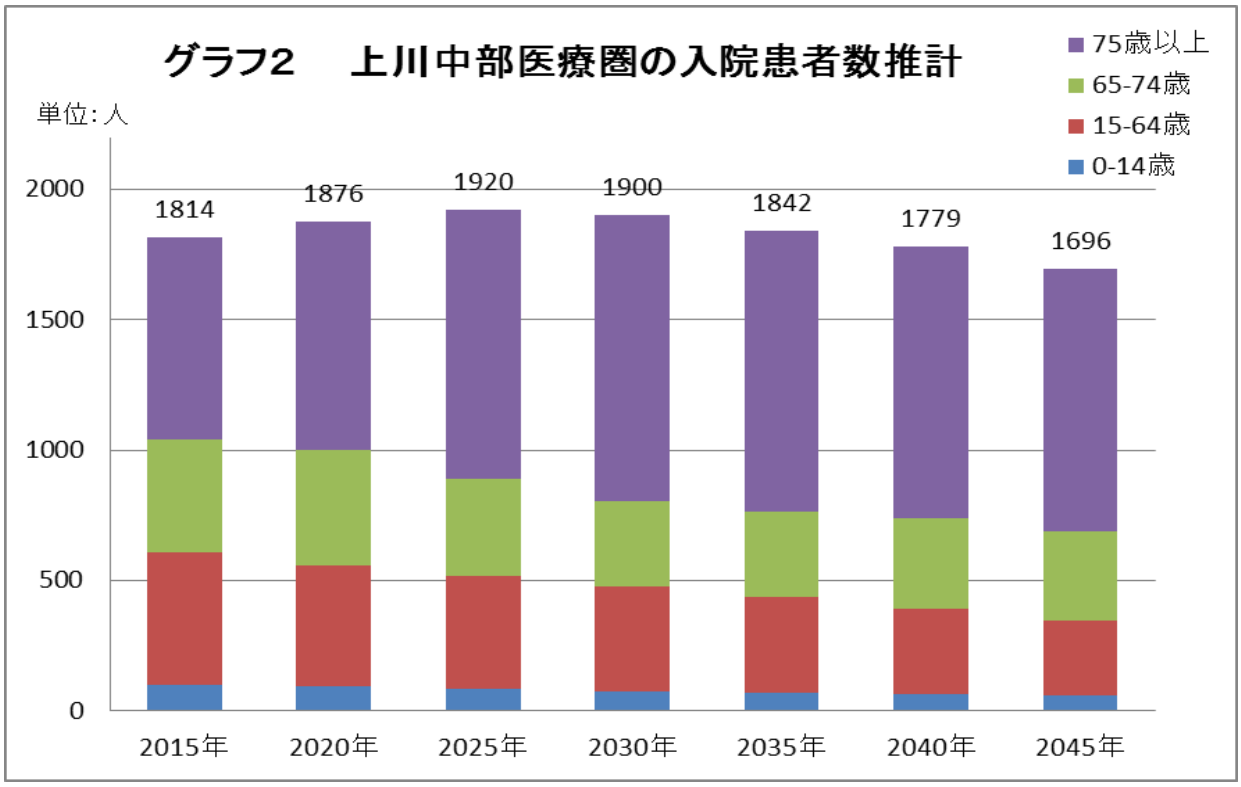
⑥ 厚生労働省患者調査データを使用した患者数推計では，２０３０年頃にピークを迎えることになるが，患者調査データは慢性期病床や有床診療所なども含めたデータのため，当院の現状の役割からすると，前述のとおり急性期医療の状況を表しているＤＰＣデータを基にする方が，より適当であると考える。

表１（２０１８年度ＤＰＣ公開データから算出）

年齢	人口１０万人当たりの入院受療率
０～１４歳	１９９.１人
１５～６４歳	２２８.９人
６５～７４歳	６６５.１人
７５歳以上	１２４９.５人
平均	４９１.５人

表２（北海道地域医療構想より）

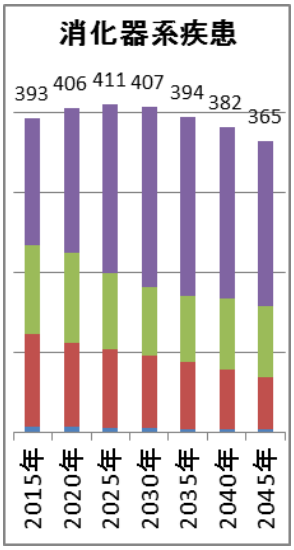
医療圏	入院流入率
富良野	２２％
上川北部	２０％
北空知	１８％
留萌	１３％
宗谷	１０％
遠紋	７％

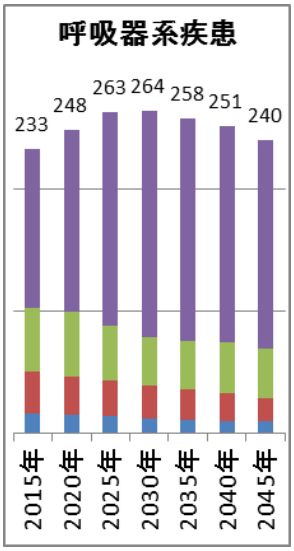


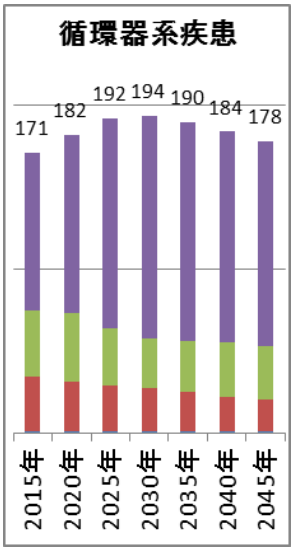
（３）疾患群別入院患者数推計

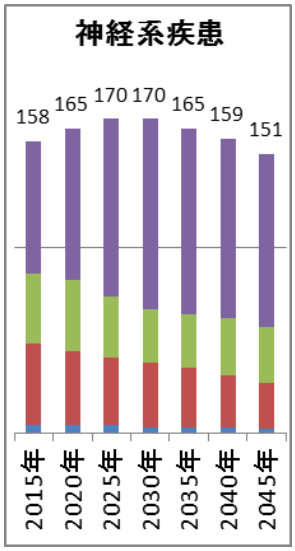
① ＤＰＣの１８分類の疾患群から，患者数の多い疾患群から１２分類を抜粋した患者数推計。（前ページ　グラフ２の疾患別内訳）

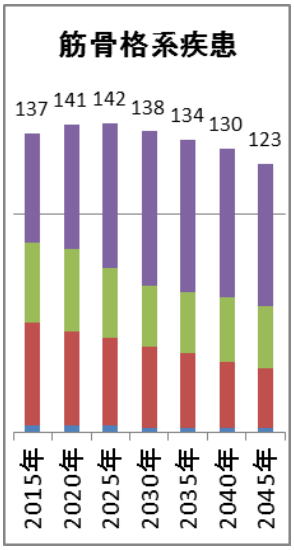
② ほとんど疾患で，２０２５年から２０３０年頃に患者数のピークを迎えるが，高齢者の割合が低い疾患では，ピークが早くなっている

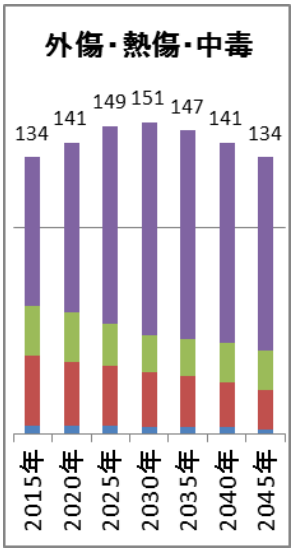


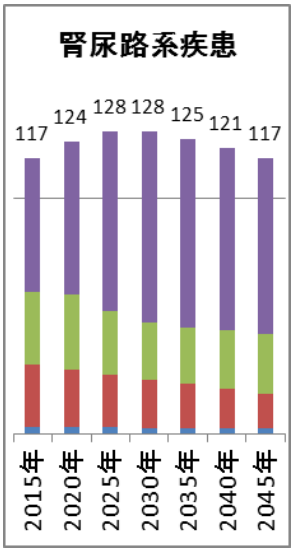


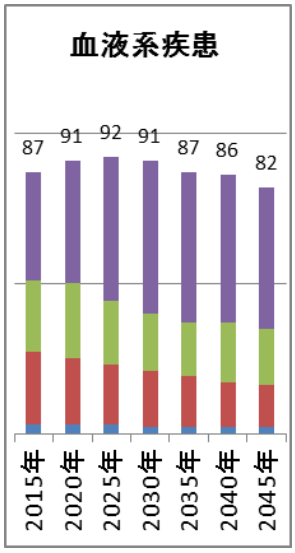


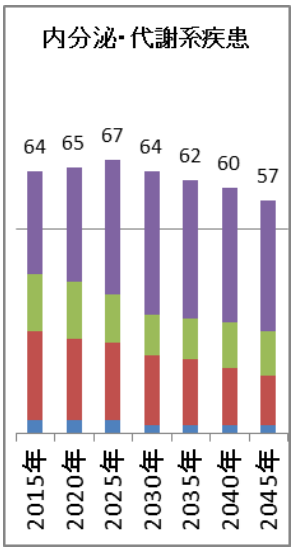


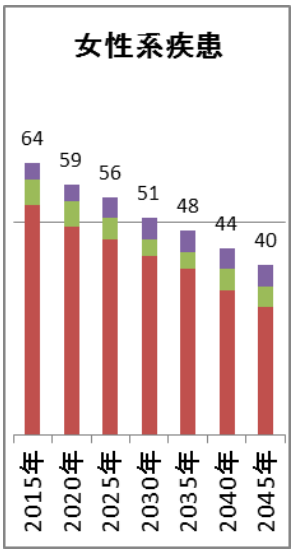


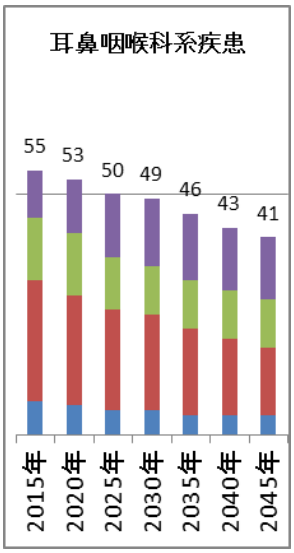


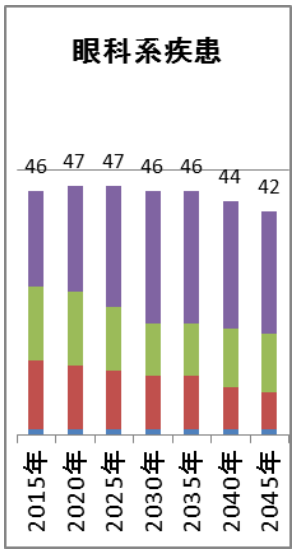












２市立旭川病院の現状

（１）患者動向

① 当院の過去５年間における患者数等の実績。

② 令和元年度の入院外来患者数については，産婦人科の診療体制縮小により大幅に減少している。

③ 令和２年度においては，新型コロナウイルス感染症の影響により，更に患者数が減少している。

④ 一方で救急搬送件数については，断らない救急を掲げながら着実に増加している。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
入院延患者数	121,964	123,119	121,553	114,431	100,799
病床利用率	69.3%	70.6%	69.7%	65.4%	57.8%
平均在院日数（一般病棟）	14.0 日	12.8 日	11.9 日	12.2 日	12.8 日
外来延患者数	238,671	235,859	237,618	221,960	208,553
手術件数	2,015	2,035	1,965	1,733	1,580
救急搬送件数	1,869	2,062	2,260	2,373	2,159
紹介率	36.1%	41.2%	42.0%	41.7%	47.9%

（２）診断郡分類別シェア

① 次のグラフは上川中部医療圏のＤＰＣ対象病院における，診断郡分類別の患者数や当院の立ち位置を視覚化したもの。

② 縦軸はＤＰＣ対象病院全体の入院延患者数，横軸は当院シェア率，円の大きさは当院の入院延患者数を示している。

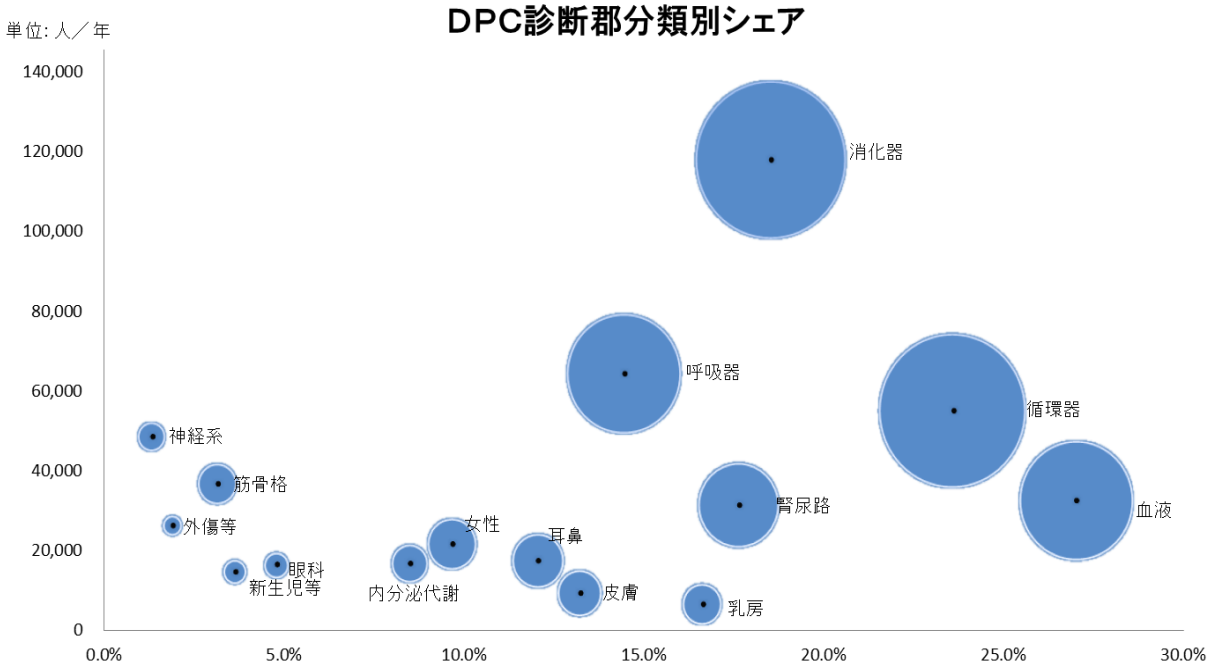
③ 当院のシェア率が高い診断郡分類としては，血液系，循環器系，となっている。

④ 当院における患者数では，円の大きさから順番に，消化器系，循環器系，呼吸器系，血液系となっている。

⑤ これらを踏まえると，消化器系，循環器系，血液系の疾患に強みを持っていると考える。

⑥ 神経系，筋骨格，外傷系については，当院の診療科の関係からシェアは小さい。

⑦ 特に，筋骨格と外傷系は整形外科に関連する疾患となるが，両方を合わせるとこの医療圏において呼吸器系疾患と同程度の患者数となり，当院に常勤医がいないことは顕在化している弱みと言える。



※２０１８年度　ＤＰＣ公開データより（ＤＰＣ病院のみを対象とした）

単位:人

	消化器系	呼吸器系	循環器系	神経系	筋骨格系	血液系	腎尿路系	外傷等	女性系	耳鼻咽喉科系	内分泌代謝系	眼科系	新生児先天性	皮膚皮下組織	乳房
全体患者数（延人数）	117,877	64,253	54,986	48,552	36,698	32,578	31,280	26,248	21,741	17,521	16,821	16,418	14,644	9,380	6,459
当院患者数（延人数）	16,331	9,344	15,568	492	1,014	9,301	4,606	226	1,644	1,836	887	383	336	1,322	1,030
シェア（症例数ベース）	18.5%	14.4%	23.6%	1.3%	3.1%	27.0%	17.6%	1.9%	9.7%	12.1%	8.5%	4.8%	3.7%	13.2%	16.6%

（３）機能評価係数Ⅱの比較分析（令和２年度　厚生労働省告示データ）

次の表は，機能評価係数Ⅱについて，旭川市内のＤＰＣ対象病院の状況と，市内ＤＰＣ標準病院群３病院の平均値，ＤＰＣ標準病院群の全国及び全道の平均値を比較している。

機能評価係数Ⅱは６つの項目からなり，それぞれの病院の診療体制や診療内容などにより決定され，毎年変更される。そして，診療報酬の請求点数に直接影響することから，ＤＰＣ対象病院にとっては非常に重要な要素となっている。

① 当院はすべての係数で全国平均及び全道平均を上回っており，機能評価係数Ⅱの合計では，ＤＰＣ標準病院郡１５１９病院中２３６番目となっている。

② 項目別では，特に在院日数の指標である「効率性係数」においては，上位１０％に位置している。

③ 当院の今後の課題としては，「カバー率係数」が挙げられる。これは，より多くの領域の疾患に対して診療を行うと上昇する係数。当院の現状は，脳神経外科や整形外科領域の疾患に対応できていないため，これらに対応することができれば，この係数を延ばすことができる。

医療機関名	医療機関郡	保険診療	効率性	複雑性	カバー率	救急医療	地域医療	合計
旭川医科大学病院	大学病院本院	0.01574	0.02320	0.01726	0.01290	0.00833	0.02828	0.1057
旭川赤十字病院	DPC特定病院	0.01574	0.02018	0.03323	0.01429	0.02313	0.02402	0.1306
市立旭川病院	DPC標準病院	0.01575	0.02258	0.01871	0.01592	0.01665	0.01619	0.1058
JA北海道厚生連旭川厚生病院	DPC標準病院	0.01575	0.01710	0.01096	0.02562	0.00969	0.02565	0.1048
独立行政法人国立病院機構旭川医療センター	DPC標準病院	0.01575	0.00769	0.03763	0.00796	0.01877	0.00719	0.0950
DPC標準病院郡（市内3病院平均）	－	0.01575	0.01579	0.02243	0.01650	0.01504	0.01634	0.1019
DPC標準病院郡（全国平均）	－	0.01571	0.01400	0.01684	0.01067	0.01487	0.01195	0.0840
DPC標準病院郡（全道平均）	－	0.01575	0.01492	0.01664	0.01078	0.01599	0.01360	0.0877